

MTS-3224US

PATENT

*J. W. Wither*  
6-101  
#2

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicants: T. Higashida et al. : Art Unit:  
Serial No.: To Be Assigned : Examiner:  
Filed: Herewith :  
FOR: RECORDING APPARATUS :  
AND PROGRAM RECORDING  
MEDIUM

914 U.S. PTO  
09/711613  
11/13/00

CLAIM TO RIGHT OF PRIORITY

Assistant Commissioner for Patents  
Washington, D.C. 20231  
S I R :

Pursuant to 35 U.S.C. 119, Applicants' claim to the benefit of filing of prior Japanese Patent Application No. 11-323366, filed November 12, 1999, is hereby confirmed.

A certified copy of the above-referenced application is enclosed.

Respectfully submitted,

  
Allan Ratner, Reg. No. 19,717  
Jack J. Jankovitz, Reg. No. 42,690  
Attorneys for Applicants

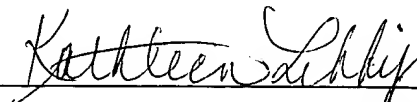
JJJ/dlm  
Encls.: (1) certified priority document

Suite 301, One Westlakes, Berwyn  
P.O. Box 980  
Valley Forge, PA 19482  
(610) 407-0700

The Assistant Commissioner for Patents is hereby authorized to charge payment to Deposit Account No. 18-0350 of any fees associated with this communication.

**EXPRESS MAIL** Mailing Label Number: EL 769592678US  
Date of Deposit: November 13, 2000

I hereby certify that this paper and fee are being deposited, under 37 C.F.R. § 1.10 and with sufficient postage, using the "Express Mail Post Office to Addressee" service of the United States Postal Service on the date indicated above and that the deposit is addressed to the Assistant Commissioner for Patents, Washington, D.C. 20231.



Kathleen Libby

MTS-3224US

日本国特許庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

01/09/2000  
JCS14 U.S. PTO  
31911/60  
11/13/00

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application:

1999年11月12日

出願番号  
Application Number:

平成11年特許願第323366号

出願人  
Applicant(s):

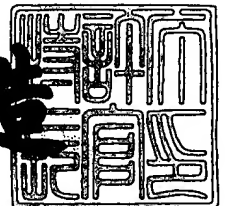
松下電器産業株式会社

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

2000年 7月28日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及川耕造



【書類名】	特許願
【整理番号】	2110011149
【提出日】	平成11年11月12日
【あて先】	特許庁長官殿
【国際特許分類】	H04N 5/76
【発明者】	
【住所又は居所】	大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式 会社内
【氏名】	東田 隆司
【発明者】	
【住所又は居所】	大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式 会社内
【氏名】	高橋 英基
【発明者】	
【住所又は居所】	大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式 会社内
【氏名】	三原 和博
【発明者】	
【住所又は居所】	大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式 会社内
【氏名】	久野 良樹
【発明者】	
【住所又は居所】	大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式 会社内
【氏名】	谷川 裕二
【特許出願人】	
【識別番号】	000005821
【氏名又は名称】	松下電器産業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100092794

【弁理士】

【氏名又は名称】 松田 正道

【電話番号】 06-6397-2840

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 009896

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9006027

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 記録装置及びプログラム記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 映像音声データ（以下、A Vデータと呼ぶ）を記録媒体に記録する記録手段と、

前記記録手段が前記A Vデータを記録している最中に、前記記録媒体に記録されているファイルを管理するファイル管理情報が壊れたかまたは失われた場合、前記A Vデータのうち前記記録媒体にすでに記録済みである部分にアクセス出来るように前記ファイル管理情報を修復または生成するファイル修復手段とを備えたことを特徴とする記録装置。

【請求項 2】 前記記録手段は、前記A Vデータを記録開始する時に、前記A Vデータを記録する先頭の記録ブロックのアドレスを前記記録媒体に記録し、

前記A Vデータを、前記記録媒体の連続する記録ブロックに記録し、

前記A Vデータを前記記録媒体に記録している最中に、前記記録媒体に記録されているファイルを管理する前記ファイル管理情報が壊れたかまたは失われた場合、前記ファイル修復手段は、前記先頭の記録ブロックのアドレスをもとに、前記すでに記録済みである部分を再生し、不連続点を見つけて、前記ファイル管理情報を修復または生成することを特徴とする請求項 1 記載の記録装置。

【請求項 3】 前記記録手段は、前記A Vデータを、前記記録媒体の連続していない記録ブロックに記録し、

前記A Vデータを前記記録媒体に記録している最中に、前記記録媒体に記録されているファイルを管理する前記ファイル管理情報が壊れたかまたは失われた場合、前記ファイル修復手段は、前記記録媒体に記録されている古いファイル管理情報を利用し、前記記録済みである部分を再生し、不連続点を見つけて、前記ファイル管理情報を修復または生成することを特徴とする請求項 1 記載の記録装置。

。

【請求項 4】 前記記録媒体の記録ブロックに前記A Vデータを書き込む際、どの記録ブロックから書き込んでいくかの順番に関する規則が予め決まっております、

前記ファイル修復手段は、前記規則を利用して前記記録済みである部分を再生することを特徴とする請求項 3 記載の記録装置。

【請求項 5】 前記 A V データは、M P E G に準拠しており、

前記不連続点とは、P C R ( P r o g r a m C l o c k R e f e r e n c e ) の値が不連続になっている所であることを特徴とする請求項 2 ～ 4 のいずれかに記載の記録装置。

【請求項 6】 前記 A V データは、M P E G に準拠しており、

前記不連続点とは、P I D ( P a c k e t I d e n t i f i c a t i o n ) が不連続になっている所であることを特徴とする請求項 2 ～ 4 のいずれかに記載の記録装置。

【請求項 7】 前記記録媒体はハードディスクであることを特徴とする請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載の記録装置。

【請求項 8】 請求項 1 ～ 7 のいずれかに記載の記録装置の全部または一部の手段の全部または一部の機能をコンピュータにより実行させるためのプログラムを記録した、コンピュータにより読み取り可能なことを特徴とするプログラム記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、A V データを記録する記録装置及びプログラム記録媒体に関するものである。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

B S 放送や C S 放送などの放送局から M P E G 2 トランスポートストリームを利用して番組が放送される。S T B ( S e t T o p B o x : 衛星放送受信器 ) は、このような番組がのせられている放送波を受信し、その番組の A V データをデコードし、アナログデータに変換してテレビモニタに表示する。

【 0 0 0 3 】

さらに、視聴者がこのような番組のうち、放送終了後に視聴したい番組や何度

も繰り返し視聴したい番組については、STBで受信したあと、IEEE1394バス（IEEE1394-1995に記述されているIEEE standard for High performance Serial Bus）を介して、ハードディスク装置などの記録装置に伝送する。そして記録装置は、伝送されてきた番組を順次記録していく。

## 【0004】

記録装置がAVデータを記録する際、AVデータを記録媒体の記録ブロック毎に書き込んでいく。そして、記録装置は、メインメモリ上にどの記録ブロックにAVデータを書き込んだかを示すファイル管理情報を持ち、AVデータの記録が完了するとこのファイル管理情報を記録媒体に書き込む。

## 【0005】

図9にファイル管理情報の例を示す。図9はMS-DOS、Windowなどで用いられるファイル管理情報である。図9では、理解を容易にするために記録ブロックが12個ある例を示している。実際は、ハードディスクの記録容量に応じた個数だけ記録ブロックが存在する。

## 【0006】

ファイル管理情報は、FAT（file allocation Table）50とディレクトリ53と呼ばれる情報からなる。

## 【0007】

FAT50は、記録ブロックのアドレスであるアドレス51と次の記録ブロックのアドレスであるNextアドレス52が対になったテーブルであり、ファイルのデータがどのような記録ブロックにどのような順番で格納されているかを示すものである。

## 【0008】

また、ディレクトリ53は、ファイルを階層的に管理するテーブルであり、ファイル名54とファイルに格納されているデータが格納されている先頭の記録ブロックのアドレスである先頭アドレス55と、ファイルが読み込み専用か、重ね書き可能かなどの属性を示す上書き可56が対になったテーブルである。

## 【0009】

FAT50とディレクトリ53を用いれば、ファイルの作成、編集、消去などの処理を管理することが出来る。

【0010】

すなわち、従来の記録装置は、AVデータの記録媒体への記録が完了してから、メインメモリ上にある最新のファイル管理情報を記録媒体に記録していた。

【0011】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、AVデータを記録している最中に、記録装置の電源をオフにした場合など、メインメモリ上にあるファイル管理情報が記録媒体に書き込まれる前に消えてしまう。従って、AVデータのうちすでに記録されている部分が記録媒体のどこに記録されているかが解らなくなり、記録済みの部分にアクセス出来なくなってしまう。

【0012】

すなわち、AVデータを記録している最中に、ファイル管理情報が壊れるかまたは失われた場合、AVデータのうちすでに記録媒体に記録されている部分にアクセス出来なくなるという課題がある。

【0013】

本発明は、AVデータを記録している最中に、ファイル管理情報が壊れるかまたは失われた場合、AVデータのうちすでに記録媒体に記録されている部分にアクセス出来ないという課題を考慮し、AVデータを記録している最中に、ファイル管理情報が壊れるかまたは失われた場合、AVデータのうちすでに記録媒体に記録されている部分にアクセスすることが出来るようにファイル管理情報を修復する記録装置及びプログラム記録媒体を提供することを目的とするものである。

【0014】

【課題を解決するための手段】

上述した課題を解決するために、第1の本発明（請求項1に対応）は、映像音声データ（以下、AVデータと呼ぶ）を記録媒体に記録する記録手段と、

前記記録手段が前記AVデータを記録している最中に、前記記録媒体に記録されているファイルを管理するファイル管理情報が壊れたかまたは失われた場合、



前記ＡＶデータのうち前記記録媒体にすでに記録済みである部分にアクセス出来るように前記ファイル管理情報を修復または生成するファイル修復手段とを備えたことを特徴とする記録装置である。

【００１５】

また、第２の本発明（請求項２に対応）は、前記記録手段は、前記ＡＶデータを記録開始する時に、前記ＡＶデータを記録する先頭の記録ブロックのアドレスを前記記録媒体に記録し、

前記ＡＶデータを、前記記録媒体の連続する記録ブロックに記録し、

前記ＡＶデータを前記記録媒体に記録している最中に、前記記録媒体に記録されているファイルを管理する前記ファイル管理情報が壊れたかまたは失われた場合、前記ファイル修復手段は、前記先頭の記録ブロックのアドレスをもとに、前記すでに記録済みである部分を再生し、不連続点を見つけて、前記ファイル管理情報を修復または生成することを特徴とする第１の本発明に記載の記録装置である。

【００１６】

また、第３の本発明（請求項３に対応）は、前記記録手段は、前記ＡＶデータを、前記記録媒体の連続していない記録ブロックに記録し、

前記ＡＶデータを前記記録媒体に記録している最中に、前記記録媒体に記録されているファイルを管理する前記ファイル管理情報が壊れたかまたは失われた場合、前記ファイル修復手段は、前記記録媒体に記録されている古いファイル管理情報を利用し、前記記録済みである部分を再生し、不連続点を見つけて、前記ファイル管理情報を修復または生成することを特徴とする第１の本発明に記載の記録装置である。

【００１７】

また、第４の本発明（請求項４に対応）は、前記記録媒体の記録ブロックに前記ＡＶデータを書き込む際、どの記録ブロックから書き込んでいくかの順番に関する規則が予め決まっており、

前記ファイル修復手段は、前記規則を利用して前記記録済みである部分を再生することを特徴とする第３の本発明に記載の記録装置である。

【0018】

また、第5の本発明（請求項5に対応）は、前記AVデータは、MPEGに準拠しており、

前記不連続点とは、PCR（Program Clock Reference）の値が不連続になっている所であることを特徴とする第2～4の本発明のいずれかに記載の記録装置である。

【0019】

また、第6の本発明（請求項6に対応）は、前記AVデータは、MPEGに準拠しており、

前記不連続点とは、PID（Packet Identification）が不連続になっている所であることを特徴とする第2～4の本発明のいずれかに記載の記録装置である。

【0020】

また、第7の本発明（請求項7に対応）は、前記記録媒体はハードディスクであることを特徴とする第1～6の本発明のいずれかに記載の記録装置である。

【0021】

また、第8の本発明（請求項8に対応）は、第1～7の本発明のいずれかに記載の記録装置の全部または一部の手段の全部または一部の機能をコンピュータにより実行させるためのプログラムを記録した、コンピュータにより読み取り可能なことを特徴とするプログラム記録媒体である。

【0022】

【発明の実施の形態】

以下に、本発明の実施の形態について図面を参照して説明する。

【0023】

（第1の実施の形態）

まず、第1の実施の形態について説明する。

【0024】

図1に本実施の形態の装置構成を示す。

【0025】

記録装置 1 と S T B 2 が I E E E 1 3 9 4 バス 5 に接続されている。また、S T B 2 にはアンテナ 3 とモニタ 4 が接続されている。

【 0 0 2 6 】

I E E E 1 3 9 4 バス 5 は、I E E E 1 3 9 4 - 1 9 9 5 に記述されている I E E E s t a n d a r d f o r H i g h p e r f o r m a n c e S e r i a l B u s である。記録装置 1 は A V データを記録し、記録した A V データを再生する装置である。S T B 2 は、放送局から送られてくる放送波を受信し、デコードしてモニタ 4 に表示したり、I E E E 1 3 9 4 バス 5 を介して送られてくる A V データをデコードしてモニタ 4 に表示したり、また、放送局から送られてくる A V データを I E E E 1 3 9 4 バス 5 に伝送したりする S e t T o p B o x (衛星放送受信器) である。

【 0 0 2 7 】

本実施の形態では、記録装置 1 や S T B 2 が処理する A V データは M P E G 2 トランスポートストリームとして伝送されたとする。また、M P E G とは M o t i o n P i c t u r e E x p e r t G r o u p の略であり、M P E G 2 は、I S O / I E C における規格番号 1 3 8 1 8 の規格である。

【 0 0 2 8 】

図 2 に記録装置 1 の構成を示す。

【 0 0 2 9 】

記録装置 1 は、I E E E 1 3 9 4 I / F 6、記録再生制御手段 7、ハードディスク 8、連続性情報検出手段 9、不連続点検出手段 1 0、C P U 1 1、メモリ 1 2、ファイル管理情報 1 3 から構成される。

【 0 0 3 0 】

I E E E 1 3 9 4 I / F 6 は、I E E E 1 3 9 4 バス 5 を介してコマンドやデータのやり取りを行うインターフェースである。コマンドは、アシンクロナス伝送と呼ばれる非同期伝送で行われ、またデータは、アイソクロナス伝送と呼ばれる同期伝送で行われる。

【 0 0 3 1 】

記録再生制御手段 7 は、I E E E 1 3 9 4 I / F 6 から送られる M P E G 2 ト

ランスポートストリームとして出力されたAVデータを記録用フォーマットに変換し、ハードディスク8に記録し、またハードディスク8に記録されているAVデータを読み出し、MPEG2ランスポートストリームに変換して出力する手段である。また、ファイル管理情報13などのデータをハードディスク8から読み出したり、記録したりする手段でもある。

【0032】

ハードディスク8は、AVデータをファイルとして記録するハードディスク装置である。

【0033】

連続性情報検出手段9は、記録再生制御手段7からMPEG2ランスポートストリームとして出力されたAVデータから、PCR (Program Clock Reference) を抽出する手段である。

【0034】

不連続点検出手段10は、検出されたPCRの値を調べ、その値が大きく変化する箇所を見つけることによってAVデータの終わりを検出する手段である。

【0035】

CPU11は、ファイル管理情報を作成、更新し、記録再生制御手段7に指示する手段である。

【0036】

メモリ12は、CPU11が実行するプログラムやデータが格納されているS D-RAMである。

【0037】

ファイル管理情報13は、データがファイルとしてハードディスク8のどの記録ブロックにどのような順番で記録されているかを知るための情報である。

【0038】

図4にファイル管理情報13の例を示す。図4はMS-DOS、Windowなどで用いられるファイル管理情報である。図4では、理解を容易にするために記録ブロックが12個ある例を示している。実際は、ハードディスクの記録容量に応じた個数だけ記録ブロックが存在する。

## 【0039】

ファイル管理情報は、FAT (file allocation Table) 21 と呼ばれる情報と、ディレクトリ 25 と呼ばれる情報からなる。

## 【0040】

FAT 21 は、記録ブロックのアドレスであるアドレス 22 と次の記録ブロックのアドレスである Next アドレス 23 が対になったテーブルであり、ファイルのデータがどのような記録ブロックにどのような順番で格納されているかを示すものである。また、Next アドレス 23 が -1 になっている記録ブロックは次の記録ブロックへの飛び先がなく、空の状態であることを示している。EOF は、ファイルの最終を示している。

## 【0041】

また、ディレクトリ 24 は、ファイルを階層的に管理するテーブルであり、ファイル名 25 とファイルに格納されているデータが格納されている先頭の記録ブロックのアドレスである先頭アドレス 26 と、ファイルが読み込み専用か、重ね書き可能かなどの属性を示す上書き可 27 が組になったものである。

## 【0042】

なお、本実施の形態の記録再生制御手段 7 は本発明の記録手段の例であり、本実施の形態の連続性情報検出手段 9、不連続点検出手段 10、CPU 11 はファイル修復手段の例である。

## 【0043】

次に、このような本実施の形態の動作を説明する。

## 【0044】

まず、放送局から送られてくる AV データを STB 2 が受信し、記録装置 1 が記録している動作を説明する。

## 【0045】

放送局から MPEG 2 トランスポートストリーム形式で AV データが放送波にのせて送られてきている。

## 【0046】

まず、ユーザは、STB 2 を操作して、番組を記録するように設定する。

## 【 0 0 4 7 】

そうすると、S T B 2 は、記録装置 1 に記録を開始するよう命じるコマンドをアシンクロナス伝送を利用して送る。このコマンドには、記録する A V データが伝送されるチャンネル番号も含まれている。

## 【 0 0 4 8 】

記録装置 1 は、記録を開始するコマンドを受け取り、記録開始の準備をする。

## 【 0 0 4 9 】

すなわち、C P U 1 は、ハードディスク 8 に記録されているファイル管理情報 1 3 を読み取るように記録再生制御手段 7 に命じる。これを受けて、記録再生制御手段 7 は、ファイル管理情報 1 3 を読み取る。C P U 1 は、読み取ったファイル管理情報 1 3 をメモリ 1 2 に一時記憶する。

## 【 0 0 5 0 】

ファイル管理情報 1 3 は、ハードディスク 8 に格納されており、データを記録する際に、メモリ 1 2 に読み込まれて、更新され、データの記録が完了した際に、再びハードディスク 8 に記録される。

## 【 0 0 5 1 】

メモリ 1 2 に一時記憶されたファイル管理情報は、例えば図 4 のようになっている。さらに、C P U 1 は、このようなファイル管理情報 1 3 から最初に A V データを記録する記録ブロックを決定する。

## 【 0 0 5 2 】

図 4 の例では、記録ブロックのアドレス 2 2 が 8 の記録ブロックから A V データを記録していくとする。

## 【 0 0 5 3 】

C P U 1 は、この記録ブロックのアドレスをハードディスク 8 に記録するように記録再生制御手段 7 に命じる。さらに、C P U 1 は、A V データの記録を開始した時刻もハードディスク 8 に書き込むように、記録再生制御手段 7 に命じる。

## 【 0 0 5 4 】

さらに、C P U 1 は、この記録ブロックのアドレスをファイル管理情報 1 3 にも登録する。記録再生制御手段 7 は、この記録ブロックのアドレスと記録を開始

した時刻を記録履歴としてハードディスクに記録する。

【 0 0 5 5 】

記録履歴の例を図 5 に示す。図 5 で、記録履歴 2 8 は、ファイル名と記録開始時刻、記録終了時刻、記録ブロックのアドレスが組になったものである。ファイル名として「番組 6」を、「1 9 9 9 年 1 0 時 0 分 0 秒」にアドレスが 8 の記録ブロックから A V データを記録開始することを示している。記録再生制御手段 7 は、このような記録履歴 2 8 を A V データの記録を開始する直前にハードディスク 8 に記録する。また、記録履歴 2 8 やファイル管理情報 1 3 は、A V データを記録するユーザ領域とは別に設けられたシステム領域に書き込まれる。また、A V データの記録が正常に終了した場合、C P U 1、記録再生制御手段 7 は、記録を終了した時刻をハードディスク 8 に記録されている記録履歴 2 8 に追加する。図 5 では、A V データの記録がまだ終了していないので、記録終了時刻が記載されていない。

【 0 0 5 6 】

一方、I E E E 1 3 9 4 I / F 6 は、コマンドに付加されたチャンネル番号のチャンネルでアイソクロナスパケットが I E E E 1 3 9 4 バス 5 から伝送されてくるのを待つ。

【 0 0 5 7 】

次に、S T B 1 は、放送局から送られてくる A V データを受信し、アイソクロナス伝送を利用して、その A V データを I E E E 1 3 9 4 バス 5 に順次伝送する。

【 0 0 5 8 】

I E E E 1 3 9 4 I / F 6 は、チャンネル番号を識別することによって、I E E E 1 3 9 4 バス 5 からアイソクロナスパケットとして送られてくる A V データを受信し、M P E G 2 トランスポートストリームとして順次出力する。

【 0 0 5 9 】

記録再生制御手段 7 は、M P E G 2 トランスポートストリームとして送られてくる A V データを記録用のフォーマットに変換して、予め定められた記録ブロックに書き込んでいく。前述したように、A V データはまず最初にこの記録ブロッ

クに書き込まれる。そして、この記録ブロックのアドレスは、ハードディスク 8 に記録されている。

【0 0 6 0】

この記録ブロックにすべて A V データが書き込まれると、CPU 1 は、ファイル管理情報 1 3 を参照して、次に A V データを書き込むべき記録ブロックを決める。そして、次の記録ブロックをファイル管理情報 1 3 に登録する。

【0 0 6 1】

図 4 の例では、アドレス 2 2 が 8 である記録ブロックの N e x t アドレス 2 3 に次に A V データを書き込む記録ブロックである 9 を書き込む。

【0 0 6 2】

本実施の形態では、記録装置 1 は、A V データをハードディスク 8 の連続した記録ブロックに書き込む。

【0 0 6 3】

この記録ブロックに全て A V データが書き込まれると、CPU 1 1 は、記録再生制御手段 7 に連続した次の記録ブロックに A V データを書き込むように命じる。また、ファイル管理情報 1 3 に次の記録ブロックのアドレスを登録する。記録再生制御手段 7 は、A V データを記録用のフォーマットに変換してから、次の記録ブロックに A V データを書き込む。

【0 0 6 4】

このように、ハードディスク 8 の連続した記録ブロックに A V データが順次書き込まれて行き、ファイル管理情報 1 3 には、A V データが書き込まれている記録ブロックのアドレスが順次登録されていく。

【0 0 6 5】

ところで、ユーザが記録装置 1 の電源スイッチをオフにしたとする。例えば、放映時間が 2 時間の番組を 1 時間分だけ記録した時に、ユーザが記録装置 1 の電源スイッチをオフにしたとする。この時、ハードディスク 8 には、1 時間分の A V データが記録されている。

【0 0 6 6】

ところが、A V データを記録した記録ブロックのアドレスが登録されているフ



ファイル管理情報 1 3 は、メモリ 1 2 に格納されている。そして、電源スイッチをオフにすると、メモリ上の内容は全て失われてしまう。従って、1 時間分の A V データを記録した記録ブロックのアドレスに関する情報は、電源オフにするとともに全て消えてしまうので、すでにハードディスク 8 に記録されている 1 時間分の A V データを再生出来なくなってしまう。

【 0 0 6 7 】

すなわち、記録していた A V データのファイルが壊れてしまったことになる。このような事態を避けるために、A V データを新たな記録ブロックに記録する度にハードディスク 8 にあるファイル管理情報 1 3 を更新すればよいように思える。そのためには、ファイル管理情報 1 3 をハードディスク 8 に書き込む処理と A V データをハードディスク 8 に書き込む処理を同時に行わなければならない。ところが、ファイル管理情報 1 3 と A V データを同時に記録するとオーバーヘッドが非常に大きくなる。従って、A V データを連続して記録することが出来なくなる。

【 0 0 6 8 】

本実施の形態の記録装置 1 は、このように壊れてしまった A V データが記録されているファイルを修復して、正常に再生できるようにする機能を持つ。

【 0 0 6 9 】

次に、上記のようにして壊れてしまったファイルを、記録装置 1 が修復する動作について説明する。

【 0 0 7 0 】

ユーザが記録装置 1 の電源スイッチをオンにしたとする。そうすると、CPU 1 1 は、ハードディスク 8 に記録されているファイル管理情報 1 3 を、記録再生制御手段 7 を介して読み込み、メモリ 1 2 に格納する。

【 0 0 7 1 】

読み込まれたファイル管理情報 1 3 は、図 4 のようになっており、壊れてしまった A V データに関する情報を全く反映していない。

【 0 0 7 2 】

さらに、記録再生制御手段 7 を介して、ハードディスク 8 に記録されている記

録履歴 2 8 を調べ、記録終了時刻が付加されていないファイルがあるかどうかをチェックする。記録終了時刻が付加されていないことから、その A V データのファイルが壊れてしまっていることがわかる。

【 0 0 7 3 】

記録再生制御手段 7 は、電源スイッチがオフにされたために正常に記録されなかった A V データの記録履歴 2 8 から、A V データが記録されている先頭の記録ブロックのアドレスを知り、その A V データを再生する。

【 0 0 7 4 】

C P U 1 は、再生されている A V データが格納されている記録ブロックのアドレスを順次ファイル管理情報 1 3 に登録する。上述したように A V データは連続した記録ブロックに記録されているので、先頭の記録ブロックがわかれば A V データを再生することが出来る。ただし、A V データがどの記録ブロックまで、記録されているかは解らない。

【 0 0 7 5 】

そこで、連続性情報検出手段 9 は、M P E G 2 トランスポートストリームとして記録再生制御手段 7 で再生された A V データのトランスポートパケットをチェックし、P C R が付加されたトランスポートパケットがある場合は、そのトランスポートパケットから P C R を抽出する。そして、連続性情報検出手段 9 は、検出した P C R を不連続点検出手段 1 0 に渡す。

【 0 0 7 6 】

ここで、若干 P C R について補足説明しておく。すなわち、P C R とは、ビデオとオーディオを復号する際に基準となる同期情報である S T C ( S y s t e m T i m e C l o c k ) をセット・構成するために符号器側で付加された時刻情報である。M P E G 2 では、P C R は、4 2 ビットで表され、2 7 M H z の周波数でカウントされるので、2 6 . 5 時間までカウント可能である。P C R は、1 0 0 m s 以内の間隔でトランスポートパケットに付加される。P C R は、トランスポートパケットのヘッダ部分に付加され、P C R が付加されているかどうかは、トランスポートパケットのヘッダのアダプテーションフィールド制御、5 フラグを参照することによって知ることが出来る。

## 【0077】

不連続点検出手段10は、連続性情報検出手段9で検出されたPCRをその前に検出されたPCRと値を比較する。そして、その値が、PCRが100msの間隔で送られてきたと仮定した場合の変化量より小さいときは、それまでのAVデータは連続していると判断する。そして、PCRが100msの間隔で送られてきたと仮定した場合の変化量より大きいときは、今回PCRが付加されているトランスポートパケットは、別のAVデータであると判断する。すなわち、再生していたAVデータの終わりを越えて再生してしまったと判断する。

## 【0078】

図3にトランスポートパケットの例を示す。PCRが付加されているPCRパケット1(15)まではAVデータは連続していたとする。そして、次のPCRが付加されているPCRパケット2(19)のPCRとPCRパケット1(15)のPCRの値が大きく異なっていたとする。そうすると、AVデータは、ビデオパケット1(16)、ビデオパケット2(17)、オーディオパケット1(18)のどこかで、別のAVデータになっていることがわかる。

## 【0079】

不連続点検出手段10がこのように、AVデータの終わりを越えて再生してしまったと判断した場合は、不連続点検出手段10は、AVデータが確実に連続しているその前のPCRが付加されていたトランスポートパケットが記録されている記録ブロックと記録ブロックにおける記録位置をCPU11に通知する。図3の例では、PCRパケット1(15)までは、確実にAVデータが連続している。

## 【0080】

CPU11は、上記の記録ブロックまでのアドレスを、ファイル管理情報に残し、それ以降の記録ブロックのアドレスが登録されている場合には、そのアドレスを削除し、不連続点検出手段10から通知されてきた記録位置でファイルが終了することを示す情報を追加する。

## 【0081】

さらに、CPU11は、記録再生制御手段7にAVデータの再生を中止するよ

うに命じ、これを受けて記録再生制御手段 7 は、A V データの再生を中止する。

【 0 0 8 2 】

最後に、C P U 1 1 は、メモリ上にあるファイル管理情報 1 3 を、記録再生制御手段 7 を介して、ハードディスクに記録する。そして、記録終了時刻を、記録開始時刻から推測し、推測した記録終了時刻を記録履歴に書き込む。

【 0 0 8 3 】

このようにして、A V データが記録されている壊れたファイルを修復することが出来る。

【 0 0 8 4 】

また、ハードディスク 8 に A V データを記録したり、記録した A V データを削除するなどの処理を繰り返すと、ハードディスク 8 に A V データを記録するための連続した空き領域が少なくなる。そうすると、C P U 1 1 は、ハードディスク 8 の連続した空き領域がなるべく多くなるように、A V データを記録する記録ブロックの再配置を行う。

【 0 0 8 5 】

次に、このような記録ブロックの再配置についての動作を説明する。

【 0 0 8 6 】

記録装置 1 に A V データを記録する記録ブロックの再配置を行うように指示したとする。この指示は、記録装置 1 の図示していない操作パネルを操作することによって行われる。

【 0 0 8 7 】

C P U 1 1 は、ハードディスク 8 からファイル管理情報 1 3 を記録再生制御手段 7 を介して読み込み、メモリ 1 2 に格納する。

【 0 0 8 8 】

そして、ファイル管理情報 1 3 を参照して、ファイルの記録ブロックを再配置する。ファイルの記録ブロックを変更した場合、C P U 1 1 は、変更したファイルのファイル管理情報 1 3 を書き替える。

【 0 0 8 9 】

このような処理を全てのファイルに対して行い、処理が完了したら、C P U 1

1 はファイル管理情報 1 3 をメモリ 1 2 から読み出し、記録再生制御手段 7 を介して、ハードディスク 8 に記録する。

【0 0 9 0】

またこの処理は時間がかかるので、操作パネルのタイマーを設定することによって、自動的に処理をすることも可能である。すなわち、ユーザが記録装置 1 を使用しない深夜などタイマーで設定した時間帯に自動的に記録装置 1 の電源スイッチが入り、記録ブロックの再配置を行い、処理が完了したら、自動的に記録装置 1 の電源スイッチが切れる。ただし、このような記録ブロックの再配置は、ファイルが壊れてないときのみ行うことが出来る。ファイルが壊れている場合は、まずファイル管理情報 1 3 を修復してから、記録ブロックの再配置を行う。

【0 0 9 1】

このように、本実施の形態では、A V データを記録する際に、A V データを最初に記録する記録ブロックのアドレスをハードディスク 8 に予め記録しておき、A V データのファイル管理情報 1 3 が失われてしまった場合でも、A V データを最初に記録する記録ブロックのアドレスから A V データを再生し、P C R の値が連続しているかどうかで A V データの終了点を検出することによって、ファイル管理情報 1 3 を修復または生成することができる。

【0 0 9 2】

(第 2 の実施の形態)

次に、第 2 の実施の形態について説明する。

【0 0 9 3】

図 1 に本実施の形態の装置構成を示す。本実施の形態の装置構成は第 1 の実施の形態と同一である。

【0 0 9 4】

図 6 に本実施の形態の記録装置 2 1 の構成を示す。記録装置 2 1 の第 1 の実施の形態の記録装置 2 1 との相違点は、記録再生制御手段 7 の代わりに記録再生制御手段 2 8 を備える点である。

【0 0 9 5】

記録再生制御手段 2 8 は、第 1 の実施の形態とは異なり、かならずしも連続し

てはいない記録ブロックにA Vデータを書き込む手段である。

【0 0 9 6】

それ以外は第1の実施の形態と同一であるので、説明を省略する。

【0 0 9 7】

なお、本実施の形態の記録再生制御手段2 8は本発明の記録手段の例であり、本実施の形態の連続性情報検出手段9、不連続点検出手段1 0、C P U 1 1はファイル修復手段の例である。

【0 0 9 8】

次に、このような本実施の形態の動作を第1の実施の形態との相違点を中心に説明する。

【0 0 9 9】

まず、放送局から送られてくるA VデータをS T B 2が受信し、記録装置2 1がA Vデータを記録している動作を説明する。

【0 1 0 0】

記録装置2 1が、記録を開始するコマンドを受け取るまでは第1の実施の形態の動作と同一である。

【0 1 0 1】

記録装置2 1は、記録開始の準備をする。

【0 1 0 2】

すなわち、C P U 1 1は、ハードディスク8に記録されているファイル管理情報1 3を読み取るように記録再生制御手段7に命じる。これを受けて、記録再生制御手段7は、ファイル管理情報1 3を読み取る。C P U 1 1は、読み取ったファイル管理情報1 3をメモリ1 2に一時記憶する。メモリ1 2に読み込まれたファイル管理情報1 3は、例えば図7のようになっている。

【0 1 0 3】

ファイル管理情報1 3は、第1の実施の形態と同様にF A T 2 9とディレクトリ3 2の情報からなる。また、第1の実施の形態とは異なり、A Vデータを記録している記録ブロックは連続していない。

【0 1 0 4】

さらに、CPU1は、ファイル管理情報13を参照して、AVデータを記録する、記録ブロックを決定する。ここで、第1の実施の形態とは異なり、CPU1は、この記録ブロックのアドレスをハードディスク8に記録しない。そして、CPU1は、この記録ブロックのアドレスをファイル管理情報13に登録する。さらに、CPU1は、AVデータの記録を開始した時刻もハードディスク8に書き込むように、記録再生制御手段28に命じる。記録再生制御手段28は、記録を開始した時刻を記録履歴としてハードディスクに記録する。

## 【0105】

図8に記録履歴36を示す。記録履歴36は、ハードディスク8のAVデータを記録するユーザ領域とは別に設けられたシステム領域に書き込まれる。また、AVデータの記録が正常に終了した場合、CPU1、記録再生制御手段28は、記録を終了した時刻をハードディスク8に記録されている記録履歴36に追加する。

## 【0106】

一方、IEEE1394I/F6は、コマンドに付加されたチャンネル番号のチャンネルでアイソクロナスパケットがIEEE1394バス5から伝送されてくるのを待つ。

## 【0107】

次に、STB1は、放送局から送られてくるAVデータを受信し、アイソクロナス伝送を利用して、そのAVデータをIEEE1394バス5に順次伝送する。

## 【0108】

IEEE1394I/F6は、チャンネル番号を識別することによって、IEEE1394バス5からアイソクロナスパケットとして送られてくるAVデータを受信し、MPEG2トランスポートストリームとして順次出力する。

## 【0109】

記録再生制御手段28は、MPEG2トランスポートストリームとして送られてくるAVデータを記録用のフォーマットに変換して、予め定められた記録ブロックに書き込んでいく。

## 【0 1 1 0】

この記録ブロックにすべてA Vデータが書き込まれると、C P U 1 は、ファイル管理情報 1 3 を参照して、次にA Vデータを書き込むべき記録ブロックを決める。そして、次の記録ブロックをファイル管理情報 1 3 に登録する。

## 【0 1 1 1】

本実施の形態では、記録装置 2 1 は、ハードディスク 8 の空いている記録ブロックにA Vデータを書き込む。A Vデータを書き込む記録ブロックは第 1 の実施の形態とは異なり、必ずしも連続しているとは限らない。

## 【0 1 1 2】

この記録ブロックに全てA Vデータが書き込まれると、C P U は、記録再生制御手段 2 8 に次の記録ブロックにA Vデータを書き込むように命じる。また、ファイル管理情報 1 3 に次の記録ブロックのアドレスを登録する。記録再生制御手段 2 8 は、A Vデータを記録用のフォーマットに変換してから、次の記録ブロックにA Vデータを書き込む。

## 【0 1 1 3】

このように、ハードディスク 8 の必ずしも連続しているとは限らない記録ブロックにA Vデータが順次書き込まれて行き、ファイル管理情報 1 3 には、A Vデータが書き込まれている記録ブロックのアドレスが順次登録されていく。

## 【0 1 1 4】

ところで、第 1 の実施の形態と同様にしてユーザが記録装置 2 1 の電源スイッチをオフにしたとする。そうすると記録していたA Vデータのファイルが壊れてしまったことになる。

## 【0 1 1 5】

本実施の形態の記録装置 2 1 は、このように壊れてしまったA Vデータが記録されているファイルを修復して、正常に再生できるよう出来る機能を持つ。

## 【0 1 1 6】

次に、上記のようにして壊れてしまったファイルを、記録装置 2 1 が修復する動作について説明する。

## 【0 1 1 7】



ユーザが記録装置 2 1 の電源スイッチをオンにしたとする。そうすると、CPU 1 1 は、ハードディスク 8 に記録されているファイル管理情報 1 3 を、記録再生制御手段 2 8 を介して読み込み、メモリ 1 2 に格納する。

【0 1 1 8】

読み込まれたファイル管理情報 1 3 は、図 7 のようになっており、壊れてしまった A V データに関する情報を全く反映していない。

【0 1 1 9】

さらに、記録再生制御手段 2 8 を介して、ハードディスク 8 に記録されている記録履歴 3 6 を調べ、記録終了時刻が付加されていない記録履歴があるかどうかをチェックする。記録終了時刻が付加されていないことから、その A V データのファイルが壊れてしまっていることがわかる。

【0 1 2 0】

記録再生制御手段 2 8 は、ファイル管理情報 1 3 を参照し、どの記録ブロックに書き込むかの規則を利用して、壊れてしまった A V データの先頭の記録ブロックを知る。

【0 1 2 1】

すなわち、ファイル管理情報 1 3 が図 7 のようになっているとする。このファイル管理情報 1 3 は、壊れた A V データが記録される直前のハードディスク 8 の状態を示している。従って、このファイル管理情報 1 3 から、次に書き込むべき記録ブロックが壊れた A V データが記録されている先頭ブロックである。

【0 1 2 2】

どのような順番で記録ブロックにデータを書き込んでいくかの規則は、例えば、アドレスの小さい空きの記録ブロックから順にデータを書き込んでいき、次に上書き可 3 5 であるファイル 3 3 を上書きする。このような規則によって、A V データが書き込まれた記録ブロックをたどっていくことが出来る。

【0 1 2 3】

記録再生制御手段 2 8 は、このような規則を利用して、A V データが記録されている記録ブロックのアドレスを知り、その A V データを再生する。

【0 1 2 4】

CPU 1 は、再生されている A V データが格納されている記録ブロックのアドレスを順次ファイル管理情報 1 3 に登録する。ただし、A V データの終了点、すなわちどの記録ブロックまで、記録されているかは解らない。

【 0 1 2 5 】

連続性情報検出手段 9、不連続点検出手段 1 0 が、第 1 の実施の形態と同様に、A V データの終端を検出する。

【 0 1 2 6 】

CPU 1 1 は、終端の記録ブロックまでのアドレスを、ファイル管理情報に残し、それ以降の記録ブロックのアドレスが登録されている場合には、そのアドレスを削除し、不連続点検出手段 1 0 から通知されてきた記録位置でファイルが終了することを示す情報を追加する。

【 0 1 2 7 】

さらに、CPU 1 1 は、記録再生制御手段 2 8 に A V データの再生を中止するように命じ、これを受けて記録再生制御手段 2 8 は、A V データの再生を中止する。

【 0 1 2 8 】

最後に、CPU 1 1 は、メモリ上にあるファイル管理情報 1 3 を、記録再生制御手段 2 8 を介して、ハードディスクに記録する。そして、記録終了時刻を、記録開始時刻から推測し、推測した記録終了時刻を記録履歴 3 6 に書き込む。

【 0 1 2 9 】

また、本実施の形態でも記録装置 2 1 は、記録ブロックの再配置を行うが、第 1 の実施の形態と同様であるので、記述を省略する。

【 0 1 3 0 】

このようにして、壊れたファイルを修復することが出来る。

【 0 1 3 1 】

なお、本実施の形態では、記録装置の電源スイッチをオンにした際に、記録装置がファイルが壊れていることを検出した場合、ファイル管理情報 1 3 の修復または生成を行うとして説明したがこれに限らない。記録装置の操作パネルのタイマーを設定することによって、自動的に処理をしても構わない。すなわち、ユー

ザが記録装置を使用しない深夜などタイマーで設定した時間帯に自動的に記録装置の電源スイッチが入り、記録装置がファイルが壊れていることを検出した場合に、ファイル管理情報 1 3 の修復を行い、処理が完了したら、自動的に記録装置の電源スイッチが切れる。また、ファイル管理情報 1 3 の修復と記録ブロックの再配置を操作パネルのタイマーを設定することによって同時に自動的に行っても構わない。

## 【0 1 3 2】

さらに、本実施の形態では、A V データがどこまで続いており、どこから不連続になっているかを P C R を利用して検出したが、これに限らない。P T S ( P r e s e n t a t i o n T i m e S t a m p ) を利用しても構わない。トランスポートパケットがアクセスユニットの先頭（ビデオの場合は 1 フレームの先頭、オーディオの場合は 1 オーディオフレームの先頭）を含む場合にアクセスユニットの先頭に付加される。この P T S が大きく変化している箇所で、A V データが不連続になっていると判断することが出来る。ただし、P C R はトランスポートストリームのヘッダに付加されているが、P T S はトランスポートパケットのペイロード内に付加されているので、P C R に較べて抽出するのが多少煩雑になるが、P C R を利用するのと同等の効果を得ることが出来る。また、P I D を利用しても構わない。トランスポートパケットに付加されている P I D が変化することによって、A V データの不連続点を抽出することが出来る。

## 【0 1 3 3】

さらに、本実施の形態では、ファイル管理情報 1 3 の例として、M S - D O S 、W i n d o w s などを用いられるファイル管理情報を用いて説明したが、これに限らない。O S / 2 における H P F S ( h i g h p e r f o r m a n c e f i l e s y s t e m ) 、M a c O S 、U N I X における i ノード、W i n d o w s 9 5 における V F A T ( v i r t u a l F A T ) 、W i n d o w s N T の N T F S ( n e w t e c h n o l o g y f i l e s y s t e m ) など、要するにハードディスクに対して記録再生が可能な O S におけるファイル管理情報でありさえすればよい。

## 【0 1 3 4】

さらに、本実施の形態における記録装置は、ハードディスクにＡＶデータを記録するとして説明したが、これに限らず光磁気ディスクなど、要するにランダムアクセス可能な記録媒体でありさえすればよい。

## 【 0 1 3 5 】

さらに、本実施の形態では、電源スイッチをオフすることによってファイルが壊れてしまった場合について説明したが、これに限らず、他の原因でファイルが壊れてしまった場合についても本実施の形態を適用することが出来る。

## 【 0 1 3 6 】

さらに、本実施の形態では、ＳＴＢと記録装置がＩＥＥＥ 1 3 9 4 バスによって接続されているとして説明したが、これに限らず、ＰＣＩバスなど要するに、ＩＥＥＥ 1 3 9 4 バス以外のバスによって接続されていても構わない。

## 【 0 1 3 7 】

さらに、本実施の形態では、ＡＶデータはＭＰＥＧ 2 トランスポートストリームであるとして説明したが、これに限らない。ＭＰＥＧ 2 プログラムストリーム、ＭＰＥＧ 1 のストリーム、ＭＰＥＧ 4 のストリームなど、要するに、ストリームの中にＡＶデータの不連続点が検出出来るような情報がふくまれているストリームでありさえすればよい。

## 【 0 1 3 8 】

さらに、本発明の記録装置の全部または一部の手段の全部または一部の機能をコンピュータのプログラムによってソフトウェア的に実現しても構わないし、ハードウェアによって実現しても構わない。

## 【 0 1 3 9 】

さらに、本発明の記録装置の全部または一部の手段の全部または一部の機能をコンピュータにより実行させるためのプログラムを記録したことを特徴とするプログラム記録媒体も本発明に属する。

## 【 0 1 4 0 】

## 【発明の効果】

以上説明したところから明らかなように、本発明は、ＡＶデータを記録している最中に、ファイル管理情報が壊れるかまたは失われた場合、ＡＶデータのうち

すでに記録媒体に記録されている部分にアクセス出来るようにファイル管理情報を修復することが出来る記録装置及びプログラム記録媒体を提供することが出来る。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の第 1 の実施の形態における装置構成を示すブロック図

【図 2】

本発明の第 1 の実施の形態における記録装置の構成を示すブロック図

【図 3】

本発明の第 1 の実施の形態における A V データの不連続点の検出方法を説明する図

【図 4】

本発明の第 1 の実施の形態におけるファイル管理情報の例を示す図

【図 5】

本発明の第 1 の実施の形態における記録履歴の例を示す図

【図 6】

本発明の第 2 の実施の形態における記録装置の構成を示すブロック図

【図 7】

本発明の第 2 の実施の形態におけるファイル管理情報の例を示す図

【図 8】

本発明の第 2 の実施の形態における記録履歴の例を示す図

【図 9】

従来のファイル管理情報の例を示す図

【符号の説明】

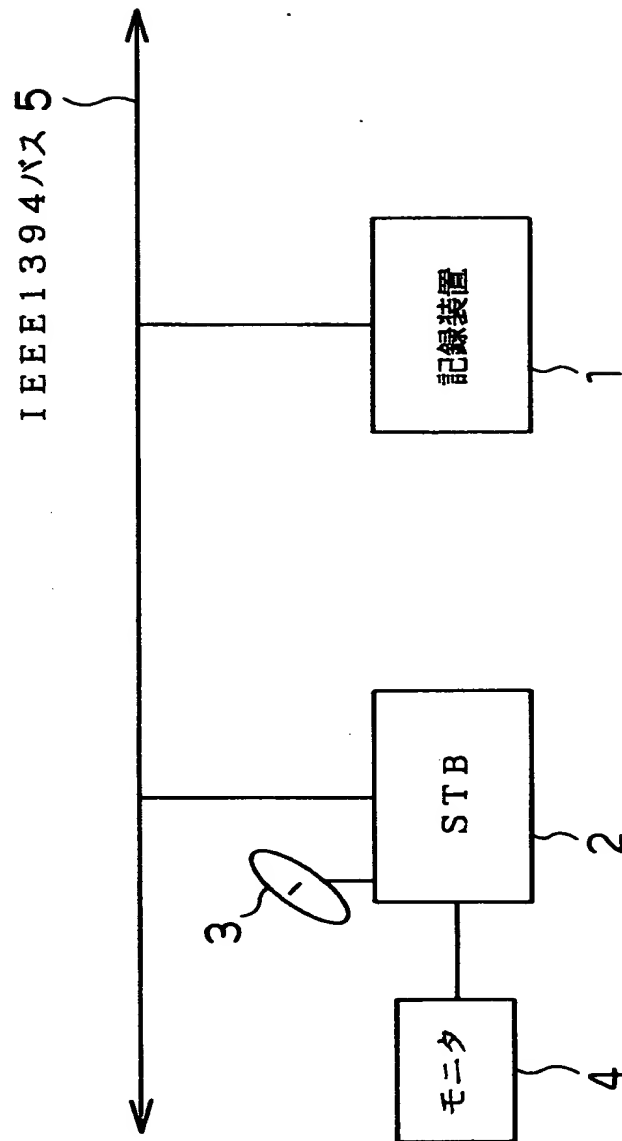
- 1 記録装置
- 2 S T B
- 3 アンテナ
- 4 モニタ
- 5 I E E E 1 3 9 4 バス

- 6 I E E E 1 3 9 4 I / F
- 7 記録再生制御手段
- 8 ハードディスク
- 9 連続性情報検出手段
- 1 0 不連続点検出手段
- 1 1 C P U
- 1 2 メモリ
- 1 3 ファイル管理情報
- 2 1 F A T
- 2 4 ディレクトリ
- 2 8 記録再生制御手段

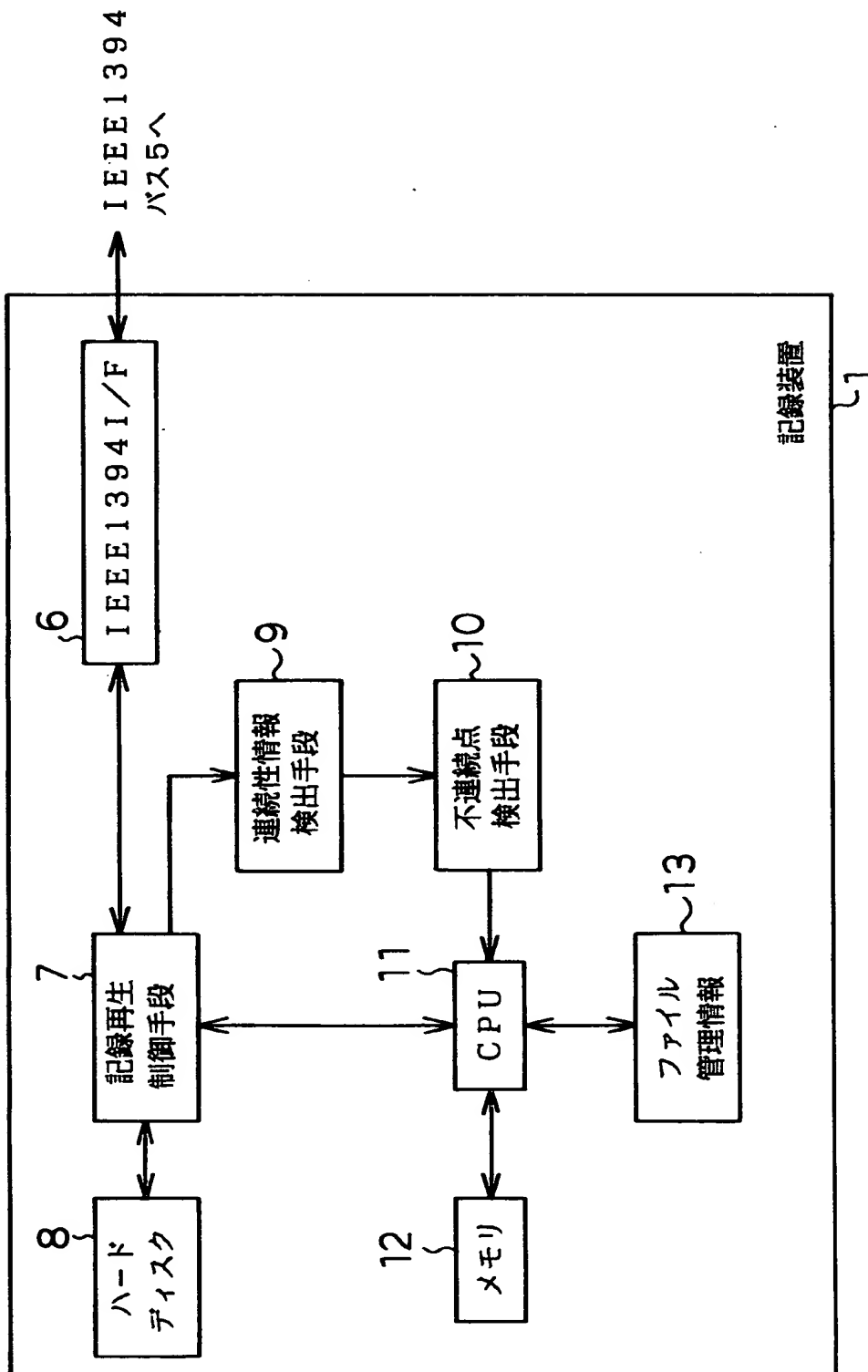
【書類名】

図面

【図 1】

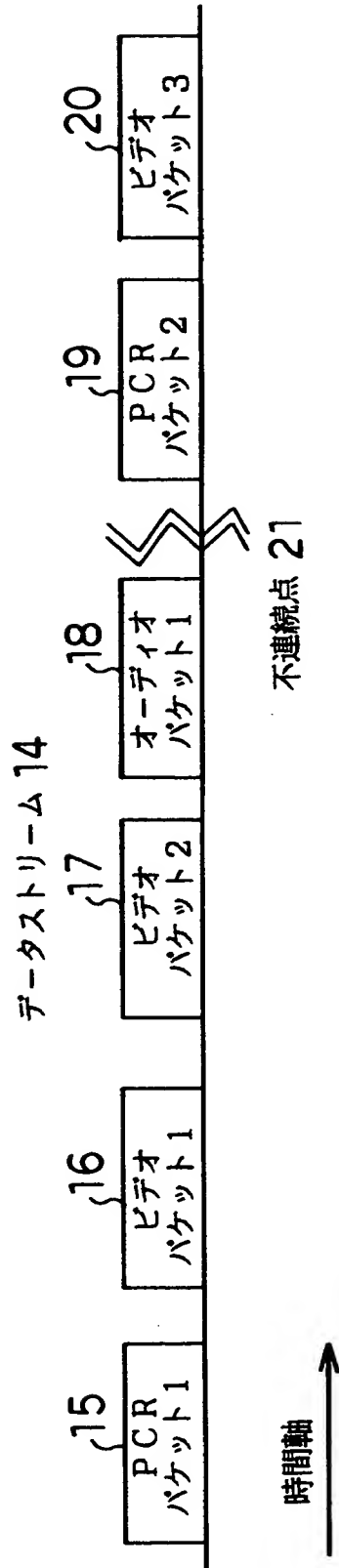


【図 2】





【図 3】



【図 4】

ディレクトリ 24			
ファイル名 25	先頭アドレス 26	上書き可 27	
番組 5	3	N	

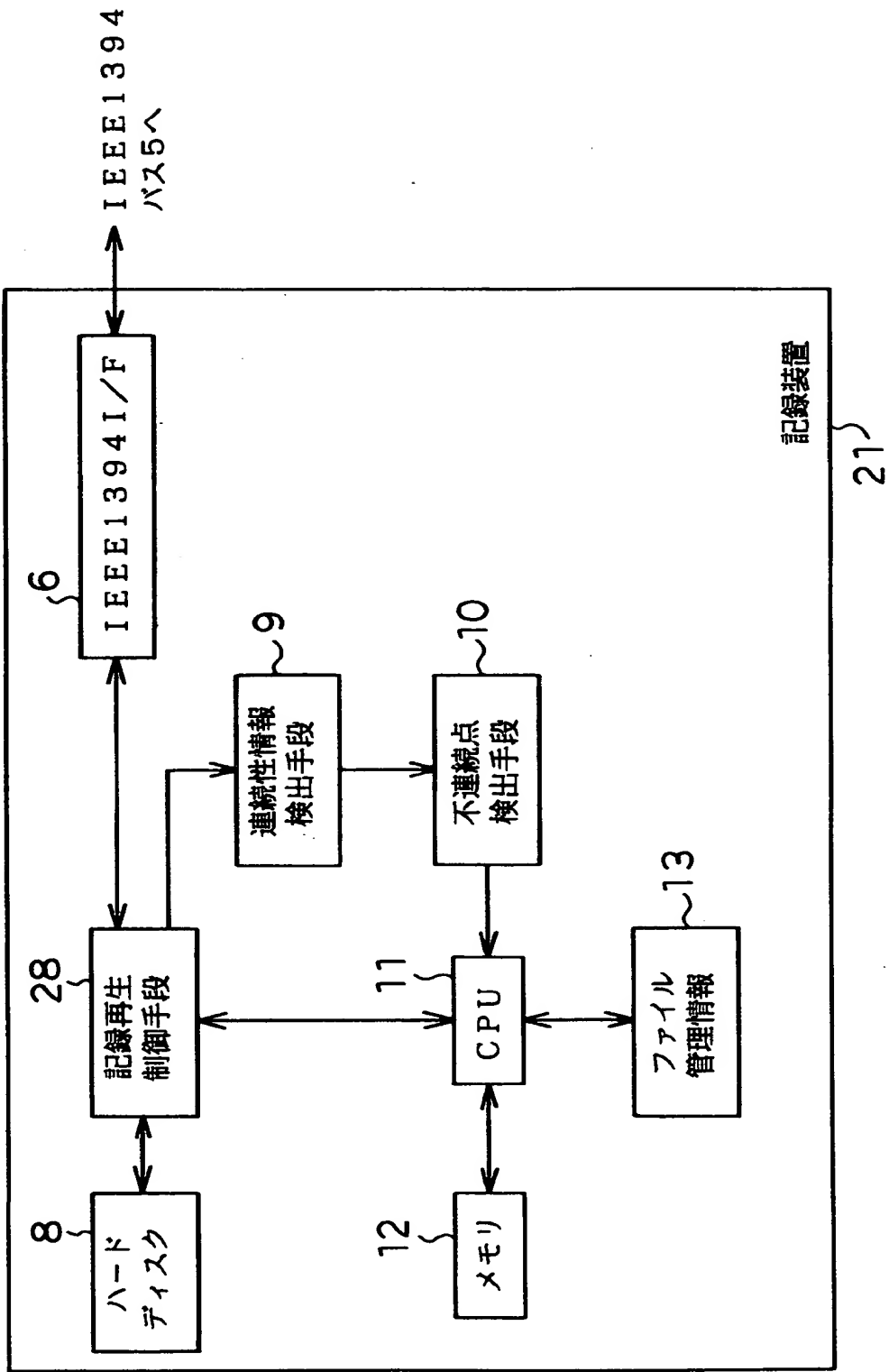
FAT 21	
アドレス 22	Nextアドレス 23
1	-1
2	-1
3	4
4	5
5	6
6	7
7	EOF
8	-1
9	-1
10	-1
11	-1
12	-1

【図 5】

28 記録履歴

ファイル名	記録開始時刻	記録終了時刻	記録ブロックのアドレス
番組 6	10時 0分 0秒	—	8

【図 6】



【図 7】

ディレクトリ 32			
ファイル名 33	先頭アドレス	上書き可 35	
番組 4	9	Y	
番組 5	3	N	

FAT29	
アドレス	Nextアドレス
1	2
2	EOF
3	4
4	5
5	6
6	7
7	EOF
8	-1
9	10
10	1
11	-1
12	-1

【図 8】

36 記録履歴

ファイル名	記録開始時刻	記録終了時刻
番組 6	1 0 時 0 分 0 秒	—

【図 9】

ディレクトリ 5 3			
ファイル名 5 4	先頭アドレス 5 5	上書き可 5 6	
番組 4	9	Y	
番組 5	3	N	

FAT 5 0	
アドレス 5 1	Nextアドレス 5 2
1	2
2	EOF
3	4
4	5
5	6
6	7
7	EOF
8	-1
9	10
10	1
11	-1
12	-1

特平 1 1 — 3 2 3 3 6 6



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 A Vデータを記録している最中に、ファイル管理情報が壊れるかまたは失われた場合、A Vデータのうちすでに記録媒体に記録されている部分にアクセス出来なくなる。

【解決手段】 A Vデータを記録媒体に記録する記録手段 7 と、記録手段 7 が A Vデータを記録している最中に、記録媒体に記録されているファイルを管理するファイル管理情報 1 3 が壊れたかまたは失われた場合、A Vデータのうち記録媒体にすでに記録済みである部分にアクセス出来るように前記ファイル管理情報を修復または生成するファイル修復手段 9、1 0、1 1 とを備えたことを特徴とする記録装置。

【選択図】 図 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005821]

1. 変更年月日	1990年 8月28日
[変更理由]	新規登録
住 所	大阪府門真市大字門真1006番地
氏 名	松下電器産業株式会社